

平成29年度 授業改善推進プラン

府中市立矢崎小学校

5年生

学年の児童の実態と課題（学習への取り組み、家庭学習、学習準備状況、など）

学年全体として、学習に意欲的に取り組むことのできる児童が多い。積極的に発言したり、学習課題に対する自分の考えをノートにまとめたりと、教科を問わず主体的に取り組んでいる。また、友達と考えを交流する際にも、自分の考えをしっかりと伝えることのできる児童が多い。更に力を伸ばしていけるように、友達との多様な考え方の交流を通し、自身の考えを深めさせる活動を様々な場面で取り入れていきたい。

家庭学習である宿題（漢字ドリル・算数プリント）の提出率も高く、基礎的な学力が概ね身に付いている。自分で課題を設定して行う自主学習については、内容・量に個人差が見られるが、学級便りで友達のノートを紹介したり、テスト前の復習などで、課題を教師側から設定したりすることを通し、個人に合わせたステップアップにつなげていきたい。

各教科

	身に付けさせたい力(伸ばしたい力)	児童の課題を解決していくための工夫	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の意図をつかみながら聞く力 ○文章全体の構成を考え、表現を工夫して書く力 ○要旨を捉えて読む力 	<ul style="list-style-type: none"> ○話の目的を意識して内容を聞き取らせるとともに、相手の考えと自分の考えを比較し、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理する場を多く設ける。 ○各段落の内容を、事前に大まかに考えてから書かせるようにする。また、冒頭部や終結部など、読み手に伝えるための工夫にも目を向けさせる。 ○繰り返し使われている言葉や、筆者の考えが書かれている段落を意識させ、分量に合わせてまとめる経験を多くさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と考えを交流する場を多く経験したことで、自分の考えとの共通点や相違点を意識して聞く力が育ってきた。 ○予めおおまかな構成を考えて文章を書くことで、途中で手が止まる児童が少なくなった。読み手を惹き付ける工夫にまで目を向けることのできる児童は限られており、継続した指導の必要性を感じる。 ○接続語や文末表現等に着目し、話の内容を捉えることのできる児童が増えた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象に関心をもち、進んで調べる力 ○資料を効果的に活用し、調べたことから自分の考えをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに学習問題につながる資料を提示し、子供たちから予想を出させ、調べる上での動機付けを行う。 ○学習問題を意識させ、何を調べるのかという観点を明確にもたせる。また、資料から得た情報をもとに、学習問題に立ち返り、自分の考えをノートにまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題を設定する際、児童が「なぜ」「どうして」と疑問をもつことのできる資料を提示したことで、主体的に学習に取り組むことができた。 ○調べる観点を意識したことで、資料から情報を集めることに関しては、ほとんどの児童が素早く取り組むことができるようになった。自分の考えをうまく表現できない児童に関しては、言葉を埋める形式等を用い、力を付けていく必要性を感じた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○正しく立式し、正しく計算する力 ○三角定規、分度器などの道具を正しく扱い、正確に測定したり、作図する力 ○整数・小数・分数の関係を理解し、四則計算の仕方を考え、用いる力 ○既習事項を生かして、筋道を立てて考え、論理的に説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○4マス関係表などを活用して立式できるようにし、計算の仕方を適宜確認しながら答えを求めようとする。 ○分度器の使い方や読み方など適宜振り返りながら測定させる。また、長さや角度を計ったところは、必ず数値を書きこむことを徹底させる。 ○線分図や面積図など活用し、整数・小数・分数の関係を捉えさせ、計算の仕方が考えられるようにする。 ○自分の考え方を、図や式だけでなく、理由も分かりやすく言葉で書かせ、それを友達に説明する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4マス関係表をもとに立式ができるようになってきた。また、単位の書き忘れなどが見られるので、繰り返し指導していく。 ○測定や作図の問題は、数値を書き込むことを徹底させることで、解答ミスが減らすことができた。 ○小数点を含むわり算の計算に誤りがある児童がいるので、筆算での位取りと小数点の位置をそろえることをより意識させていく必要がある。 ○自分の考えの根拠を示しながらノートにまとめ、説明することができた。また、友達の立てた式を見て説明できる力も付いている。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を解決するために、必要な観察や実験の方法を考える力 ○実生活や既習事項から、観察や実験の予想やその理由を考える力 ○観察や実験から得た知識を自らの実生活に生かす力 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題を明確にし、どんなことが分かれば解決するのかを共通理解して、根拠をもって観察や実験の方法を考えさせる。 ○観察や実験を行った後に問題を振り返り、何を調べるために行ったのかを確認する。また、理科的な事象を生かしている身近なものを紹介したり、考えさせたりして、学習内容と実生活を結び付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対して実験方法を考え、実際に取り組むことができた。 ○7割程度の児童は、実生活や既習事項をもとに予想を立て、理由を明確にすることができた。一方、2割程度の児童は、事前に学習を進めており、結果を知った上で実験に臨むことがあった。どうしてその結果になるのかを自分なりに考えることができるように助言する必要がある。また、1割程度の児童は、自分の言葉で予想や理由を書くことができない。予想を立てる前には、既習事項をふり返らせるなどの手立てが必要である。 ○8・9割程度の児童が、結果をもとに考察を書くことができるようになった。一方、1・2割の児童は、自分の言葉でまとめることができない。班で共有する時間を設け、できる限り自分なりにまとめられるようにしていく必要がある。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を解決するために、主体的・協働的に取り組む力 ○各運動領域の特性に応じた技能を身に付ける力 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人やチームごとにそれぞれの課題を見つけさせ、解決するためのめあてを立てさせる。振り返り際には、周りに広げるための価値付けや、次につながる助言を行う。また、グループ学習や学習カードを工夫し、友達と積極的に関わることのできる場や環境を整える。 ○学習カードや掲示資料を工夫し、各運動領域で身に付けさせたい技能についての理解を深める。学習を進める中で、コツやポイントを紹介しあったり、技能を身に付けさせるための場を設定したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを活用したことで、めあてをもって取り組み、振り返りを行うまでの学習の型を身に付けることができた。自身に合っためあてを立てられない児童のために、映像や資料等を活用していく必要性を感じた。 ○運動にはコツやポイントがあることに気づき、友達と紹介し合いながら技能を高めることができた。全員がしっかりと技能を身に付けることができるための、場の工夫が課題である。

	身に付けさせたい力(伸ばしたい力)	児童の課題を解決していくための工夫	成果と課題(年度末)
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決のために必要な資料を見付け、活用できる力 ○相手意識・目的意識をもって調べたことを適切に発表する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に課題意識をもたせ、何を調べるのか、なぜ調べたいのかを明確にして調べさせるようにする。 ○どのようにしたら相手に伝わりやすいかを考えさせ、相手を意識した発表をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマや役割を分担することで、調べ学習や発表に向けての準備に意欲的に取り組むことができた。 ○発表する場を考えると、言葉を選んだり、発表方法を決めたりすることができた。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る力 ○外国と日本の言語や文化の違いに気付く力 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師自身が積極的に外国語を話し、児童と共に楽しむ姿勢を見せる。知識面や技能面を強調せずに、どのような表現も受け入れ、外国語に対する安心感をもたせる。 ○日本と外国を比較しながら共通点や相違点に気付くことができるように、授業で扱う題材を精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発音等を気にして、積極的に授業に参加できない児童がいる。安心して表現活動に取り組める環境を、継続して整える必要性を感じる。 ○ALTの話や映像から、文化や学校の様子等、日本との共通点や相違点に気付くことができた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う力 ○曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する力 ○楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏の良さを理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○主な旋律や副次的な旋律のそれぞれの音をしっかりと歌えるようにしてから、パートに分かれて1音、2音と少しずつ音を増やして歌い、聴き役を決め、全体のハーモニーを聴いて、良かったところやアドバイスなどをさせるようにする。 ○互いの楽器の音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもち、意見交流をし、演奏したり合奏したりさせる。 ○ワークシートを使い、想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、発表し共有させ、楽曲の特徴や演奏の良さを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主な旋律や副次的な旋律のそれぞれの音をしっかりと歌えるようにしてから、パートに分かれて1音、2音と少しずつ音を増やして歌うことができた。聴き役を決めて、自分たちで全体のハーモニーを聴き良かったところやアドバイスをすることで、次のステップに進むことができた。 ○互いの楽器の音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取った後、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図を持ち、意見交流をし、演奏したり合奏したりすることができた。ただし、思いはあっても演奏に結び付けたところまでいかないこともあったため、技能面も高めていく。 ○楽曲から想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、発表し共有するということを一年間行うことで、ワークシートに記入する量も増え、定着してきた。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○表現活動に自分の意図をもつことや、表現に値する題材を見つける力 ○自分、仲間との作品に共感し、尊重するとともに、画家や作家の芸術作品を味わう力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分にとって価値ある体験やモチーフなどを選ぶ題材の設定や環境作りを行い、潤沢な材料等の準備の中での表現活動ができるようにする。 ○自分の作品を自分の意図をもって飾ったり、展示したり、使ったりすることや、意味を持った題名を付けることや、自らの言葉・文章等で制作意図を伝える場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を振り返ったり、国語科文学教材等での心の震えなどを、描画表現に結び付けたことにより、自分の表現を模索する場面が増えてきた。また、4年生までに習得してきた技能を、存分に生かせる工作教材を配置し、付けた力を発揮する場面を増やし、自分の可能性を広げることにつながっている。 ○展覧会を三学期に行ったことで、日頃の造形表現活動を、他者視線で顧みることや、自分以外の作品や作品に込められた思いを深くみ取ることにつながった。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や地域に支えられ成長してきたことを知り、家庭生活と家族のかかわりを見つめ、自分ができることを考えて、より良い生活にしていこうと工夫していく力 ○家族の一員としての自覚を持ち、家族のために家事を分担していこうとする力 ○家庭生活を維持していくのに必要な家事の内容を知り、整理整頓や調理の基礎、裁縫の基礎を学び、学んだことを実生活に活かしていく力 ○教科書や資料を読み、自分に必要な情報を取り出し、活用していく力 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことや実践したことを発表しあい、生活を見直しさらに工夫していこうとする意欲を高める。 ○家庭科で学んだことを、家庭で実際に活用をしていくように呼び掛ける。調理実習後は、その応用調理をする家庭学習を設定し、家事能力を高めるとともに、家族のために働く喜びを味わわせる。 ○事前に計画をたて、手順や道具について確認し、協力して安全に実習に取り組ませる。裁縫では基礎縫いに時間をかけ、作品にいかしていく。 ○教科書や資料を繰り返して確認し、ワークシートを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理実習の後、家庭でも同じ課題(応用の課題)に取り組むことができた。家族からのコメントをもらうことで、また作りたいという思いを高めることができた。 ○班で役割や持ち物を分担し、協力して学習に取り組むことができた。 ○展覧会に向けて、ウォールポケットの製作に意欲的に取り組んだ。出来上がりイメージデザインを工夫したので、個性豊かな作品がたくさんできた。

学年の児童の成果と課題(年度末)

年度当初から変わらず、学習に対して意欲的に取り組むことのできる児童が多い。学期ごとの目標に、挙手することや発表の回数を増やすことを挙げる児童も多く、学年全体として前向きな雰囲気を持ち、成長することができている。教科を問わず、調べたことや考えたことをノートにまとめる力も目に見えて伸びてきている。考えを交流する際に、自分の考えを伝えることに苦手意識をもつ児童も出てきているので、友達と考えを交流する機会を継続して経験させ、自信につなげていきたい。自主学習については、予習やテスト前の復習に取り組む児童も増え始め、テスト結果にも成果が表れてきている。自主学習については個人差が大きいので、取り組みを全体で共有し、学年全体の成長につなげていく必要性を感じる。